

農技セ第6513号  
平成27年8月3日

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成27年度技術情報について

平成27年度技術情報第5号を発表したので送付します。

平成27年度技術情報第5号

平成27年8月3日  
徳島県

冬春イチゴの親株から発生したランナー子苗(1番苗)で、イチゴ炭疽病の感染検定を実施した結果、採集葉から分生子塊の形成が多数確認されました。このことから、今後、育苗株での炭疽病の発生が懸念されます。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：冬春イチゴ  
病虫害名：炭疽病

1.発生地域 県下全域

2.発生時期 8月～

3.発生状況

(1)平成27年7月10～13日にかけて、徳島市、小松島市、阿南市、佐那河内村、阿波市の10圃場より、育苗中のイチゴ子苗の最外葉を1株1葉、計20葉採集し、イチゴ炭疽病の簡易予察検定法に基づき検定した。その結果、調査10圃場中7圃場(70.0%)から炭疽病菌が検出された(表1)。

(2)平成27年6月30日に実施した親株の潜在感染検定では、調査11圃場中9圃場でイチゴ炭疽病菌が確認され、今回の子苗での検定でも、その大半の圃場で炭疽病菌が確認された。また、親株の検定で感染が確認されていない圃場からも検出された(表1)。

4.防除法等

(1)本病は雨滴や頭上かん水により分生子が水滴飛散することで伝染するため、育苗圃場では雨よけを行う。

(2)薬剤は予防的に、7日～10日間隔で散布を行う。

(3)葉かきを定期的に行い、株間の風通しを良くする。また、葉かき後は必ず薬剤による予防散布を行う。

(4)株元灌水等の水滴の跳ねがない灌水方法を用いる。

(5)防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 イチゴ苗における炭疽病感染調査結果

採集地		育苗方式	親株感染株率(%)* <sup>1</sup>	子苗感染株率(%)* <sup>2</sup>
徳島市	三軒屋町	棚育苗	25	25
徳島市	八多町①	棚育苗	0	25
徳島市	八多町②	棚育苗	75	65
小松島市	田野町	棚育苗	60	0
阿南市	加茂町	棚育苗	80	65
阿南市	楠根町	棚育苗	50	5
佐那河内村	①	棚育苗	10	0
佐那河内村	②	棚育苗	0	15
阿波市	高尾	棚育苗	20	50
阿波市	吉田①	棚育苗	15	0
		通常育苗	70	0
阿波市	本安	棚育苗	0	—

\*<sup>1</sup> 2015年6月30日実施の親株検定結果

\*<sup>2</sup> 2015年7月30日実施の子苗検定結果